

## 廃炉・汚染水対策チーム会合 第6回事務局会議 議事概要

日時: 平成26年5月29日(木) 10:00~11:45

場所: 東京電力 本店 本館11階1101・1102会議室／福島第二免震棟1階会議室  
／福島第二免震棟3階会議室／福島第一免震棟2階総務会議室  
／福島復興本社(福島分室)

出席者:

田中教授(東大)、

糟谷対策監、吉田審議官、新川室長(資工庁)、  
田中審議官代理(文科省)、得津室長(厚労省)、金城室長(規制庁)、

森山理事(JAEA)、金山理事代理(産総研)、鈴木専務理事(IRID)、  
横山常務理事代理(電中研)、畠澤事業部長代理(東芝)、丸技監(日立)、  
姉川主幹技師(三菱重工)、姉川常務(東電) 他

議事:

### 1. プラントの状況について

- ・ 東京電力より、プラント関連パラメータ、滞留水の貯蔵状況について説明があった。

Q. HTI連絡トレンチへ流入した地下水のうち、建屋へ移送した量について分かれば教えてください。(吉田審議官)

A. 直接の回答ではないが、5/27までの一週間には86mmの降雨があり過去のデータから推測すると約580m<sup>3</sup>/日の地下水流入が想定される。約580m<sup>3</sup>/日を上回って増加している部分の中に、HTI連絡トレンチへの地下水流入の影響が含まれると考えている。なお、HTI連絡トレンチから建屋への汲み上げ量は約290m<sup>3</sup>/日となるが、建屋と連絡トレンチの間で水のやり取りがあるため、実際の移送量の評価が難しい。(東電)

Q. 4/29の週に滞留水の増加量が減少したのは何故か。(田中教授)

A. 建屋の滞留水は建屋に設置した水位計で評価しているが、当該期間に水位計を校正した影響で減少している。今後、詳細な水位管理のため耐放射性の強い水位計を複数設置予定。(東電)

### 2. 個別の計画毎の検討・実施状況

- ・ 東京電力及び資源エネルギー庁より、これまでの一ヶ月の動きと今後一ヶ月の予定について、「中長期ロードマップ進捗状況(概要版)」並びに以下の資料に基づき説明があった。
  - ① 循環ループ縮小工事の開始
  - ② 多核種除去設備CFF炭酸塩スラリー流出の原因と対策
  - ③ 地下水バイパス運用開始
  - ④ RO濃縮水のリスク低減に向けた取組
  - ⑤ 凍土遮水壁の状況報告

- ⑥ トリチウム分離技術検証試験事業の公募
  - ⑦ 地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況
  - ⑧ 放水路水質調査
  - ⑨ 福島給食センター設置工事開始
  - ⑩ 3号機SFP内大型ガレキ撤去作業の進捗状況
  - ⑪ 共用プールリラッキングに関する実施計画変更認可申請
  - ⑫ 3号機R/B1階MSIV室内調査結果
  - ⑬ 1号機S/C上部調査装置実証試験の実施
- ・ 主なやりとりは以下の通り

<多核種除去設備CFF炭酸塩スラリー流出の原因と対策>

- Q. テフロンが放射線劣化しやすいことは広く認識されているが、なぜテフロンを採用したのか。(田中教授)
- A. 現行の多核種除去設備はH24年2月から7月の非常に短い期間で設置したものであり、材料の検証が十分でなかった。今後設置する多核種除去設備では使用しない予定。(東電)
- C. テフロン以外の高分子材料も多かれ少なかれ放射性劣化するので水平展開の際によく検討頂きたい。(田中教授)

- Q. CFFのみではなく、ボール弁に使っているテフロンはどうするのか。(糟谷対策監)
- A. ゴム製のパッキンで代用できるものがあるか検討中。(東電)

<滞留水処理分野スケジュール>

- Q. 多核種除去設備の処理が遅れるとタンクのインサービスが見送られるのは何故か。(糟谷対策監)
- A. タンクは設置されているが、貯留すべき水がなく、水を受け入れることが出来ないためである。(東電)
- C. 貯留する水の有無ではなく、タンクが貯留可能となる時期を示して頂きたい。(糟谷対策監)

<地下水及び海水中の放射性物質濃度の状況>

- Q. 東波除堤北側について、最近のデータを見ると少し上昇傾向だったものが横ばいになっているといえるのか。(新川室長)
- A. 以前のデータの変動の範囲内ではあるが、至近のデータを見ると上昇傾向のものが横ばいとなっており、引き続き推移を監視する。(東電)

<放水路水質調査>

- Q. 放水路へ流入した水はどこかへ流出しているのか。放水路内に滞留しているのか。(新川室長)
- A. 一部、亀裂や放水口から流出している可能性はある。4M盤の水の流れ全般を見た場合、東西方向の流れが支配的であり、放水路を経由した南北方向の流れの影響は包含されると考えている。(東電)

<使用済燃料プール対策スケジュール>

- Q. 1号機建屋カバーの解体を6月上旬に予定しているが、飛散防止対策、ダストモニタリング体制等の検討状況を報告頂きたい。(資工庁)
- A. 現在、対策内容を詰めているところである。取り外し前には説明させて頂く。(東電)

<3号機SFP内大型ガレキ撤去作業の進捗状況>

- Q. クレーン旋回装置不具合というのはどのような状況か。(新川室長)
- A. 5月中旬の準備作業中に、2台のクローラクレーンの内、1台において、ブレーキを掛けた状態でクレーンが動いた。ブレーキの摩耗劣化が要因と考えられるため、現在ガレキ撤去作業を中断中。(東電)

<共用プールリラッキングに関する実施計画変更認可申請>

- Q. 現時点で収納缶に入れなければならない燃料体数は想定しているか。(新川室長)
- A. 現時点では想定できていない。1号機には震災前に破損していた燃料があり、1、3号機については震災時のガレキ落下により、燃料が破損した可能性もあるので、プール内ガレキ撤去後に破損燃料の体数を確認する。不足であれば追加で燃料ラックを交換する事も検討する。(東電)

<1号機S/C上部調査装置実証試験の実施>

- Q. 水漏れはベローなのか、配管なのか。(田中教授)
- A. ベローはカバーがついているので、カバー内部のどこからどう漏えいしているかは確認できない。調査は困難であるので、当該箇所全体の止水を検討する。(東電)
- Q. パッキン部分は問題ないのか。(田中教授)
- A. これまでの調査では、パッキンのある真空破壊弁やトラス室のハッチ等から漏えいは確認されていない。(東電)

3. その他

- ・ 次回は、6月26日(木)に開催する方向、確定次第別途連絡する。(新川室長)

以上